

**製品名: DAPK2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09788**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	DAPK2
別名	DAPK2; Death-associated protein kinase 2; DAP kinase 2; DAP-kinase-related protein 1; DRP-1
遺伝子 ID	23604.0
SwissProt ID	Q9UIK4
免疫原	抗血清はヒト DAPK2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 284-333

**背景**

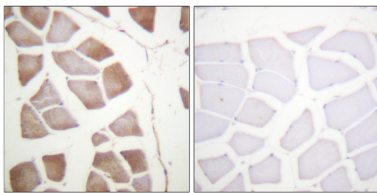
この遺伝子は、セリン/スレオニンプロテインキナーゼファミリーに属するタンパク質をコードします。このタンパク質は、N末端

プロテインキナーゼドメインと、それに続く保存されたカルモジュリン結合ドメインを有し、プログラム細胞死の正の調節因子である細胞死関連プロテインキナーゼ 1 (DAPK1) のカルモジュリン結合ドメインと高い類似性を示します。この遺伝子の過剰発現は、細胞のアポトーシスを誘導することが示されています。この遺伝子は、複数のポリアデニル化部位を利用します。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素制御: Ser-318 の自己リン酸化によって負に制御される。機能: アポトーシスの正の調節因子として機能するカルシウム / カルモジュリン依存性セリン / スレオニンキナーゼ。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CAMK Ser/Thr プロテインキナーゼファミリー。DAP キナーゼサブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: ホモ二量体。ホモ二量体化はアポトーシス機能に必須であり、Ser-318 の自己リン酸化によって阻害される。組織特異性: 調査した全ての組織種において普遍的に発現する。心臓、肺、骨格筋で高レベルに発現する。、

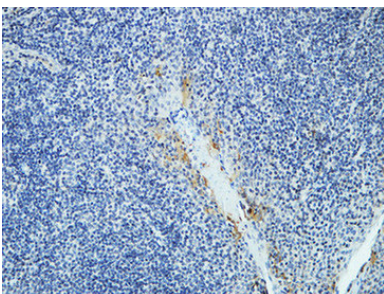
## 研究分野

がんの経路;膀胱がん;

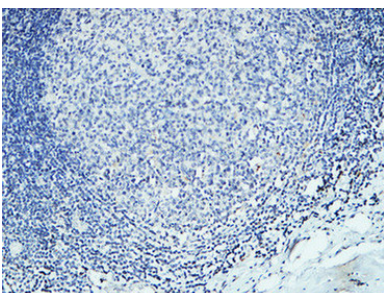
## 画像データ



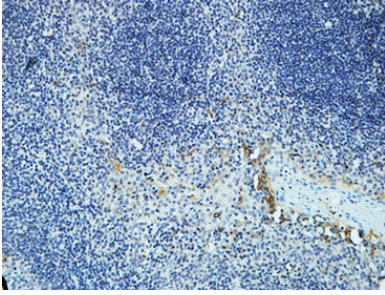
DAPK2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト骨格筋の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高压高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高压高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。